

生態系調査の実施

事業内容

(1) 鳥類・魚介類調査

鳥類調査は、藺牟田池の留鳥、冬鳥、夏鳥、旅鳥や、コブハクチョウ、アイガモ等の移入種の個体数の経年変化を調査し、藺牟田池の水草を採食するコブハクチョウの影響の低減と、カモ類の良好な越冬地としての環境を確保するために餌となる水草の回復に努めるなど、鳥類が生息するための良好な環境づくりに反映します。



コブハクチョウ

魚類調査は、ドジョウ、ギンブナ等の在来種の生息状況、オオクチバス、ブルーギル等の移入種の生息状況を確認し、移入種による在来種やベッコウトンボ等の捕食の状況を調査し、外来魚駆除等在来種が生息するための良好な環境づくりに反映します。



ブルーギル

(2) 昆虫調査及びビオトープモニタリング

昆虫調査は、国内野生動植物のベッコウトンボをはじめ藺牟田池に生息する昆虫類の経年変化を確認し、生息数の変化と、餌となる植物の生育状況など生息環境の関係を調査し、昆虫が生息するための良好な環境づくりに反映します。



ビオトープ

ビオトープモニタリングは、平成21年に発生した藺牟田池の大渇水により以降3年間、ベッコウトンボをはじめとする昆虫類に多大な影響が及びました。そこで平成23年に、渇水に影響しない生息環境を確保するためビオトープを設置しました。

定期的なモニタリングにより、適切な維持管理を行います。

(3) 植物調査

植物調査は、藺牟田池に生育するすべての植物をリストアップする植物相調査と、植物の面的な広がりやまとまりを把握するための植生調査を行い、過去の調査結果と比較分析することにより環境の変化を考察し、植物が生息するための良好な環境づくりに反映します。



泥炭地面積の把握

また、泥炭形成植物群落の面積の推移を確認し、今後の適切な維持管理に反映します。